資 料 1

第3回　長野都市圏総合都市交通計画委員会

資　料

1. 長野都市圏総合都市交通計画委員会スケジュール・検討概要について 1
2. 平成27年度委員会における意見と対応について 2
3. 課題と調査の体系（平成27年度の検討結果より） 3
3.1 調査概要一覧 4
3.2 調査スケジュール 5
4. 分科会の開催、結果の整理 6
4.1 開催状況 6
4.2 結果のまとめ 9
5. 都市圏の方向性のポイント 10
5.1 交通から見た都市圏の方向性のポイント 10
5.2 将来像検討のための資料 12
5.3 都市構造図（検討中） 12
参考　スマートフォンを活用した調査 13

長野都市圏総合都市交通計画協議会　事務局

ながの都市圏
パーソントリップ調査
PERSON TRIP SURVEY in NAGANO

1. 長野都市圏総合都市交通計画委員会スケジュール･検討概要について

■全体スケジュール

年度	実施概要	検討内容	
平成27年度	○企画･準備 ○予備調査の実施	既往計画の整理、現況分析、課題抽出 ↓ 調査の方法、内容の検討 ↓ 予備調査の実施（11 月中～下旬） ↓ 予備調査の結果整理、本調査の方法検討	広報計画の検討 ↓ 広報の実施 （予備調査）
平成28年度	○パーソントリップ本調査の実施 ○交通実態の分析 ○都市圏将来像の検討 ○交通需要予測	パーソントリップ本調査の準備 ↓ パーソントリップ本調査の実施 ↓ データの取りまとめ 交通実態の分析 → 交通需要予測の条件整理等 ↓ 都市圏将来像の検討 → 交通需要予測	広報の実施 （本調査）
平成29年度	○計画課題の整理 ○都市交通計画の策定 ○実施体制の検討	計画課題の整理 ↓ 将来シナリオの設定、評価 ↓ 都市交通計画の策定 ↓ 実施体制の検討	広報の実施 パブリックコメント

協議会①
委員会①
委員会②
協議会②
委員会③
委員会④
協議会③
委員会⑤
委員会⑥
委員会⑦
協議会④

■検討概要

【委員会①】 課題及び調査方法の検討（H27.12.14）
- ･都市圏の課題の検討
- ･課題に対応した調査方法の検討

【委員会②】 パーソントリップ本調査の検討（H28.2.1）
- ･予備調査の結果を踏まえた調査方法の検討
- ･必要な補完･付帯調査の検討

【委員会③】 都市圏の方向性（H28.10.26）
- ･分科会開催結果を踏まえた都市圏の課題
- ･都市圏の方向性について

【委員会④】 都市圏将来像、交通需要予測方法の検討（H29.3 頃）
- ･本調査の結果を踏まえた都市圏将来像の設定
- ･交通需要予測方法の検討

【委員会⑤】 交通需要予測、計画課題の検討（H29.6 頃）
- ･交通需要予測の検討･評価
- ･都市圏の計画課題の検討

【委員会⑥】 都市交通計画の策定（H29.10 頃）
- ･都市圏将来像、交通計画の検討･評価

【委員会⑦】 都市交通計画の策定（H30.2 頃）
- ･都市交通計画の検討
- ･実施体制の検討

■H28 検討概要

委員会③（H28.10.26）
- PT 調査の実施状況等
- 分科会開催結果を踏まえた都市圏の課題
- 都市圏の方向性について
- 意見聴取

委員会④（H29.3 月頃）
- PT 調査結果の報告（速報）
- 都市圏将来像の設定
- 交通需要予測方法の検討
- 意見聴取

2. 平成27年度委員会における意見と対応について

・第１回委員会(H27.12.14)、第２回委員会(H28.2.1)における主な意見と、意見に対する対応は次の通りである。
・調査票の設計に対する技術的見地からの意見は、基本的に反映し調査を行っている。

表2．1　委員会の議題

第１回委員会 (H27.12.14)	計画課題および調査方法の検討	・都市圏の課題の検討 ・課題に対応した調査方法の検討 ・予備調査結果の速報(報告)
第２回委員会 (H28.2.1)	パーソントリップ本調査の検討	・第１回委員会における意見と対応について ・予備調査の結果を踏まえた調査方法の検討 ・必要な補完、付帯調査の検討

表2．2　第１回･第２回委員会における主たる意見

区分	主たる意見	対応方針	対応結果
対象圏域	・第１回計画に含まれていた、小川村及び高山村の対応を検討した方が良い。	・対象範囲に含まれなくても、道路ネットワークなどの計画は幅広に検討する。	・両村が分科会へ参画
都市圏の現況	・DID 面積及び人口について、昭和 45 年と現在だけではなく、中間年との比較も必要ではないか。	・中間年を含め、DID 人口及び面積の推移を整理する。なお、昭和 45 年の国勢調査は、昭和 43 年に現行の都市計画法が公布され、区域区分制度（いわゆる「線引き」）が創設されてから最初の調査である。	・H27 年度に整理済み
	・長野都市圏の構成市町村は変化しているものの、過去２回実施したパーソントリップ本調査の結果（交通分担率や平均トリップ数など）を可能な限り比較してはどうか。	・調査結果の推移から見える事項として、自動車分担率の高止まりや私事目的の増加など、構成の変化が挙げられる。	・H27 年度に整理済み
	・過去５年間で行政支出額が倍増した理由を整理した方が良い。	・行政支出額倍増の理由は、鉄道関連の費用増大の影響である。	・H27 年度に整理済み
	・時間帯別の交通状況（交通量や混雑度など）を整理した方が良い。	・時間帯別の交通状況は、道路交通センサス（プローブデータ含む）のデータを活用した整理を検討する。	・ETC2.0 活用予定
調査の体系	・路線バスでは担えない場所（役割）をタクシーが担っていることから、タクシー利用者の調査も必要ではないか。	・タクシー協会へ資料提供を依頼し、利用実態（輸送実績、運送収入など）を整理する。また、別途実施しているアンケート調査の結果を活用する。	・活用予定
	・長野都市圏の課題として、「公共交通で移動できる環境や、公共交通サービス水準のあり方」とあるが、どのような公共的な移動サービスを提供（実現）するのかという議論もあると思うので、「交通システム」というワードを入れた方が良い。	・表現を「交通システムやサービス水準のあり方」に改める。	・修正済み
	・付帯調査のサンプル数はどの程度を予定しているか。	・「交通と暮らしの意識調査」は約 7,100 世帯、「65 歳以上の方の意識調査」は約 11,300 世帯への配布を行う。	・対応方針により実施中
	・冬季交通の実態（特に降雪時）を把握する必要はないか。	・付帯調査において、冬季交通に関する項目を追加する。	・対応方針により実施中
	・増加する高齢者の交通実態（高齢者の日常の姿）の把握が必要ではないか。	・付帯調査において、「65 歳以上の方の意識調査」を実施する。	・対応方針により実施中
	・調査にあたり、サンプル数を確保するための工夫が必要ではないか。	・サンプル数が確保できない場合は、予備ロットで追加の配布を検討する。	・回収率確認後に対応
	・中央通りの歩行者だけではなく、他もみる必要があるのではないか。	・長野市が実施している「まちなか調査」を活用する。	・活用予定
	・長野都市圏の境界で実施する「コードンライン調査」では、調査票の配布は必要ないか。	・パーソントリップ本調査で把握できない交通量（長野都市圏へ出入りする交通量）は、道路交通センサスや人口流動統計により補完する。調査票配布は行わない。	・センサス、人口流動統計により補完予定
予備調査の結果	・回収率の低い 15～34 歳について、お願い葉書による回収率の変化は。	・ばらつきはあるものの、年齢が高いほどはがきありの場合に回収率が高い傾向。	・予備調査結果を踏まえて実施中
	・対象者の重複の可能性や、その対応があるか。	・予備調査対象者名簿の保持ができないため、重複の可能性がある。	
ＰＴ調査	・行き先の場所は 10 番くらい用意した方がよいのではないか。吸収トリップ（自宅に帰らないトリップ）の場合、記入方法が混乱しないか。	・第２回ＰＴ調査や今回の予備調査の結果から、調査票には８番まで記載とした。１日（３時～翌３時まで）の行動を記載いただきたい旨、注意書きに記載する。	・対応方針により実施中
	・日常的に親の家へ介護で行っているような世帯のトリップを考慮できないか。	・個人票の「施設の種類」に、「親族の家」を追加する。目的に「親族の介護・世話」を追加する。	・対応方針により実施中
	・回答途中で諦める人が多い。設問全体ボリュームが分かるように web サイトの工夫をした方がよい。	・web サイト設計の際に、ご意見を参考にする。	・スクロールバー等対応
	・８トリップより多い場合であっても、８トリップまでは記載するように注書きすべき。日を跨いで自宅までのトリップを記載しないように注意書きに記載が必要。記入例に従って記入してほしい旨、調査票表面に入れてはどうか。	・指摘の通り対応する。	・対応方針により実施中
付帯調査	・対象者の負担を軽減するような調査票の改善が必要である。	・調査ボリュームの考慮。	・対応方針により実施中
	・設問の追加、言葉遣いの修正提案。	・意見、指摘の点は修正。	・対応方針により実施中
補完調査	・記入例の工夫。設問の追加、言葉遣いの修正提案。	・意見、指摘の点は修正。	・対応方針により実施中
	・駅での調査実施は、日数、時間帯、場所、対象者など事前に教えてほしい。	・調査個所等については、個別に事前相談する。	・対応方針により実施中
	・人口流動統計の活用を検討してほしい。	・人口流動統計について、国総研と情報交換しながら活用する。	・対応方針により実施中
将来都市構造	・過去２回実施したパーソントリップ本調査の結果や計画を踏まえ、目指すべき将来像を早めに議論した方が良い。	・パーソントリップ本調査の結果を待たずに、将来像の議論を開始する。	・分科会結果等を踏まえ議論を開始
計画策定体制	・都市圏内でもそれぞれの地域に異なる事情があるので、分科会の設置の考え方を教えてほしい。	・分科会を実施する。	・４地区５回の分科会を開催

3. 課題と調査の体系（平成27年度の検討結果より）

第２回計画からの変化／都市圏の現況

広域交通、高速交通体系の充実
- 上信越自動車道4車線化、スマートインターチェンジの整備
- 北陸新幹線（長野～金沢間）の開業
- 県内外への高速バスサービスが充実

依然として高い自動車依存・公共交通利用の低迷
- 各市町の主要駅の乗降客数は減少傾向
- バス網見直し、生活交通確保のためのデマンドバス等が実施
- 公共交通に対する行政支出額が増加し、路線の維持が困難
- タクシーの輸送人員は減少しているものの、高齢者の利用が増加
- 運転免許保有者数は増加傾向。平均保有台数は 2.2 台
- 都市計画道路の改良率は向上したが、県内主要渋滞箇所の約3割が都市圏内に存在
- 自動車分担率は第 1 回から第 2 回計画で増加し、予備調査でも同様の傾向

人口減少・高齢化社会の進展
- H22→H42 の 20 年間で、人口は約 60 万人から 51 万人に減少
- DID 面積の増加に伴い、人口密度は低下
- 一部の市町では、空き家率が県平均を上回る
- H17→H42 の 25 年間で、自動車交通量は 0.87 倍の見通し
- 私事目的の交通が増加、平均トリップ数はほぼ横ばい
- 住み替えなどコンパクトなまちづくりへの協力意向も一定程度確認

長野市中心部の活力低下
- 歩行者主体の空間整備が行われるも、歩行者数は減少
- 中心部の人口減少、人口密度低下
- 善光寺の観光利用者は年間 610 万人
- 道路混雑は高く、旅行速度は低い

市町中心部の活力低下
- 郊外型商業施設との競争、商品販売額低下
- まちなかの人口減少、人口密度低下
- 公共交通利用者の低下

郊外や主要観光地のアクセス・回遊性
- 観光地が都市圏内に多数存在
- 観光地利用者数は減少傾向
- 公共交通カバー率は約8割、全てを網羅するまでには至らない
- 冬季交通サービスの低下

都市圏の課題（案）

■広域交通や高速交通体系の充実を踏まえ、活用のあり方や機能の高め方

■交通システムやサービス水準のあり方

■交通面からみて望ましい都市構造のあり方、人口や都市機能の分布のあり方

■都市圏の拠点としての長野市中心部の交通や、アクセスのあり方

■市町中心部やまちなかにおける交通や、アクセスのあり方

■身近な生活拠点・観光拠点における交通や、アクセスのあり方

上位計画・関連計画

県　：　長野県総合5ヵ年計画、新総合交通ビジョン、観光振興基本計画、都市計画区域マスタープラン　等

市町：　総合計画、都市計画マスタープラン　等

PT の課題

■PT は1日（特定日）だけの調査であり、1週間で数日だけ行う行動や休日の交通行動が把握できない

課題に対応した調査 ／ 調査方法

来街者等対象調査

①来街者の交通行動調査（PT 補完調査）
- 新幹線駅（長野駅、飯山駅）やバスターミナル等で、来街者を対象に都市圏内での交通行動及び都市圏交通に対する意向を調査

②観光客の交通行動調査（PT 補完調査）
- 観光地で、観光客を対象に都市圏内での交通行動及び都市圏交通に対する意向を調査

調査方法：
- 駅や観光地等で、聞き取りもしくは手渡し配布・郵送回収方式によるアンケート調査
- 交通行動は、携帯電話位置情報、訪日外国人ローミングデータを活用

③公共交通利用者調査（PT 補完調査）
- PT 本調査でサンプル数が少ないと思われる公共交通利用者を対象に、公共交通に対する意識や今後の期待等を調査

調査方法：
- 主要駅で、聞き取り、手渡し配布・郵送回収方式によるアンケート調査

居住者対象調査

④交通行動に関する実態調査（PT 本調査）
- 都市圏内居住者を対象に、一日の交通行動の実態（目的、手段、時間等）及び属性（性別、年齢、職業、居住地、免許や自家用車の有無等）を調査

⑤交通と暮らしの意識調査（PT 付帯調査）
- 交通手段の選択理由、季節変化、公共交通利用の可能性等の意識を調査
- 今後の住まいや暮らし方に関する意識を調査
- PT 本調査対象世帯の一部を対象

⑥65 歳以上の方の意識調査（PT 付帯調査）
- 高齢者を含む世帯を対象に、交通行動の実態や意向、今後の暮らしへの意識を調査
- PT 本調査対象世帯で高齢者を含む一部を対象

調査方法：
- 郵送配布・郵送回収方式によるアンケート調査
- WEB 回答方式を併用

第3ロットのみスマホ回答併用

※回収率は、予備調査の結果を踏まえ38%に設定（お願い葉書あり）

⑦まちなかの動きの把握調査
- PT 本調査で把握できない「まちなか」の細かな動きを調査

調査方法：
- 既往調査などの活用

⑧スクリーンライン調査
- PT 本調査の精度を確認・補完するため、都市圏内の渡河部で交通量を調査

調査方法：
- 道路・街路交通情勢調査、もしくは現地でのカウント調査

⑨1週間連続調査
- 交通行動の曜日変動や細かな移動を把握することを目的とした調査

調査方法：
- スマートフォンを用いた簡易調査

3.1 調査概要一覧

	調査項目		調査対象	調査規模	調査実施時期	調査方法	調査項目	結果の活用方法	進捗
都市圏居住者対象調査	パーソントリップ調査（本体調査）（前項の④）		・都市圏内居住者	・都市圏居住者のうち5歳以上の方の7.04%を対象 ・4万4千世帯へ配布	・H28.10～11月	・郵送配布、郵送回収、WEB回答併用	・一日の交通行動の実態（目的、手段、時間等）、属性（性別、年齢、職業、免許有無等）を調査	○交通行動の調査結果をもとに、都市圏全体へ拡大し、交通流動の現状を把握する。 ○将来の都市圏の構造変化や属性の変化を踏まえ、交通流動の将来予測を行い、課題を把握する。	実施中 第1ロット 9/28発送 第2ロット 10/12発送 第3ロット 10/19発送
	付帯調査	交通と暮らしの意識調査（前項の⑤）	・都市圏内居住者	・本体調査の対象世帯のうち、7,100世帯へ配布	・H28.10～11月	・郵送配布、郵送回収、WEB回答併用	・交通手段の選択理由、季節変化、公共交通利用の可能性等の交通に関する意識を調査 ・今後の住まい方や暮らし意識を調査	○パーソントリップ調査（本体調査）だけでは把握できない利用者の意識や今後の暮らしに関する希望を把握し、都市政策や交通施策の検討に活用する。	
		65歳以上の方の意識調査（前項の⑥）	・都市圏内居住者	・本体調査の対象世帯のうち、65歳以上の方を含む11,300世帯へ配布	・H28.10～11月	・郵送配布、郵送回収、WEB回答併用	・普段の交通行動の実態や意向を調査 ・今後の暮らしへの意識を調査	○今後増加が予想されている高齢者の意識や今後の暮らしに関する希望を把握し、都市政策や交通施策の検討に活用する。	
来街者等対象調査	補完調査	来街者の交通行動調査（前項の①）	・来街者（都市圏内新幹線駅、バスターミナル利用者）	・2,000票配布、25%回収	・H28.10月、H29.1月	・手渡配布、郵送回収	・来街者の都市圏内での交通行動および都市圏交通に関する意向を調査	○来街者の流動や意識を把握し、都市圏内の二次交通のあり方や、施策検討に活用する。	10/19実施
			・来街者	・携帯電話位置情報出現サンプル数による	・H28.10月	・携帯電話位置情報の集計	・携帯電話位置情報の「人口流動統計」により、都市圏外居住者の流動量を調査		集計中
		観光客の交通行動調査（前項の②）	・観光地来訪者（観光客）	・700サンプル取得（観光地7箇所、各100票取得）	・H28.8月	・調査員が直接聞き取り	・観光地で観光客を対象に、都市圏内での交通行動及び都市圏交通に関する意向を調査	○観光客の流動や意識を把握し、都市圏内での流動のあり方、観光客への交通手段や交通サービスの提供の検討など、施策検討に活用する。	8/20,21実施済み
			・訪日外国人	・携帯電話ローミングデータ出現サンプル数による	・H28.8月	・携帯電話ローミングデータの集計	・携帯電話ローミングデータにより、訪日外国人の、滞在・流動状況を調査		集計中
特定交通、地域の対象調査		公共交通利用者調査（前項の③）	・公共交通利用者	・2,000票配布、25%回収	・H28.10月	・手渡配布、郵送回収	・公共交通利用者に対し、公共交通に対する意識や今後の期待等を調査	○公共交通の問題点や、公共交通に求められるサービス水準の検討などに活用する。	10/19実施
	まちなかの動きの把握調査（前項の⑦）		・まちなか利用者	～ 既往調査の活用 ～ （中央通り歩行者優先化事業効果検証調査 等）				○まちなかの交通のあり方の検討や、まちなかでの交通手段の検討に活用する。	既往調査により対応
	スクリーンライン調査（前項の⑧）		・スクリーンライン（渡河部）通過自動車	・2か所（丹波島橋、村山橋）	・H28.10月	・人手カウント調査	・橋梁部を横断する自動車交通量をカウント調査	○パーソントリップ調査（本体調査）の精度確認や、都市圏通過交通量の補完のための基礎資料として活用する。	10/19実施

1週間連続調査（前項の⑨）	・都市圏内居住者（長野市のみ）	・予備票分で抽出した1,600世帯に配布	・H28.10月（第3ロット）	・郵送配布、スマホ回答	・1週間の交通行動の実態（目的、手段、時間等）、属性（性別、年齢、職業、免許有無等）を調査 ・調査項目はPT調査より簡便化	○PT調査で把握することのできない交通行動の把握 ○通常のPT調査との違いを把握	10/23～29

3.2 調査スケジュール

	6月				7月				8月				9月				10月				11月				12月				1月				2月				3月		
	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週	4週	1週	2週	3週
調査票準備（PT本体）																																							
調査票準備（付帯調査）																																							
総務省申請																																							
市町抽出協議																																							
住民基本台帳データ確定					●																																		
市町抽出																																							
郵便局手続き																																							
印刷・封入																																							
第1ロット　（P3④～⑥）																																							
お願い葉書投函														●																									
調査票投函																●																							
調査日																	4～6																						
回収																		●																					
第2ロット　（P3④～⑥）																																							
お願い葉書投函																●																							
調査票投函																		●																					
調査日																			18～20																				
回収																				●																			
第3ロット　（P3④～⑥）																																							
お願い葉書投函																	●																						
調査票投函																			●																				
調査日																				25～27																			
回収																					●																		
予備ロットの実施検討　等																																							
市町広報誌対応																																							
広報PR活動																																							
問合せ対応																																							
回収票開封、確認																																							
回収票整理、ファイリング																																							
データ化																																							
拡大・基礎集計																																							
補完調査（来街者調査）　（P3①）																			●												●								
補完調査（観光客調査）　（P3②）											●																												
補完調査（公共交通利用者調査）　（P3③）																			●																				
スクリーンライン調査　（P3⑧）																			●																				

※●は各項目の実施時期を示す

※調査日は、各ロットとも3日間のうちの1日を世帯ごとに指定

4. 分科会の開催、結果の整理

4.1 開催状況

長野都市圏総合都市交通計画の策定に向けて、交通の現場に携わっているそれぞれの分野の皆様から、交通計画の課題などについて、幅広くご意見をいただくことを目的として、建設事務所単位で計5回実施した。

(1)開催日時・場所

日時	分科会	場所	参加者数
8/19(金)14 時～	北信分科会①	北信合同庁舎　講堂	13 名
8/24(水)13 時～	北信分科会②	北信合同庁舎　202・203 会議室	10 名
8/29(月)13 時半～	千曲分科会	千曲建設事務所講堂	10 名
9/2(金)13 時半～	須高分科会	須坂市役所 305 会議室	21 名
9/5(月)14 時～	長野分科会	長野県庁議会棟　3階　第1特別会議室	27 名

(2)参加者(委員)

分科会	関係者区分	参加者
長野分科会	分科会長	長野建設事務所長
	行政関係	長野市、信濃町、飯綱町、小川村
	経済関係	長野商工会議所、長野市商工会、信濃町商工会、飯綱町商工会、小川村商工会
	観光関係	ながの観光コンベンションビューロー、信州しなの町観光協会、飯綱町観光協会、小川村観光協会
	福祉関係	長野市・信濃町・飯綱町・小川村の各社会福祉協議会
	交通関係	桜観光タクシー(株)、(有)飯綱ハイヤー、アルプス観光タクシー(株)、長電バス(株)、アルピコ交通(株)
須高分科会	分科会長	須坂建設事務所長
	行政関係	須坂市、小布施町、高山村
	経済関係	須坂商工会議所、小布施町商工会、高山村商工会
	観光関係	須坂市観光協会、小布施文化観光協会、信州高山温泉郷観光協会
	福祉関係	須坂市・小布施町・高山村の各社会福祉協議会
	交通関係	長電バス(株)、須坂タクシー協会
千曲分科会	分科会長	千曲建設事務所長
	行政関係	千曲市
	経済関係	千曲商工会議所、戸倉上山田商工会
	観光関係	千曲市観光協会
	福祉関係	千曲市社会福祉協議会
	交通関係	長野県タクシー協会、(有)シンリク観光
北信分科会	分科会長	北信建設事務所長
	行政関係	中野市、飯山市、山ノ内町、野沢温泉村
	経済関係	信州中野商工会議所、中野青年会議所、飯山商工会議所、みゆき野青年会議所
	観光関係	信州なかの観光協会、信州いいやま観光局、山ノ内町観光連盟
	福祉関係	中野市・飯山市の各社会福祉協議会
	交通関係	長野交通(株)、長電バス(株)、中野ハイヤー(株)

(3)各分科会の意見概要

■長野分科会

分類	背景、コメント	課題
バス交通	・利用客は減少しているが、**インバウンドの増加**に伴い特定路線では若干の伸びも。	・**利用客の減少へ歯止め**をかける対応。 ・需給**バランスや目的に応じた取り組み**が必要。 ・観光路線と生活路線の組み合わせを検討。
	・中山間地域は**路線の維持に苦慮**。貨客混在の可能性なども検討。 ・人口が減少傾向にあり、バス利用も減少の傾向。 ・路線バスは**生活路線の性格が強く、観光利用に不向き**。 ・**バス停の除雪**対策に苦慮。	
	・部分的に高速道路を利用する特急便を新設して、**速達性を担保するなど工夫**している。 ・各集落に入る端末部分での速達性確保は困難。	・**用途や目的に応じた系統設定や編成**を継続する。
高齢者・福祉交通	・福祉有償運送で、途中で立ち寄りなどが難しい。 ・高齢者の**通院目的以外への対応への声**もあるが、高齢者だけ手厚くすることの是非。 ・**外出機会は、健康維持**にも重要。	・**外出機会の確保**に継続的に取り組む。
	・スーパーで、**買い物希望の方のバス運行**や、昼食会実施後の買物目的送迎の実施なども。	・単一目的だけではなく、利用者**ニーズにあわせた施策**の検討。
タクシー交通	・送迎やデマンド交通の利用により、**タクシー利用は減少**傾向。 ・**インバウンドのタクシー利用はわずか**。料金が決まっている路線で利用あり。	・タクシーの活用を含めた施策の検討。
	・観光地によっては、タクシー利用以外の手段が無い場合もある。 ・施設側で**送迎を行わないと誘客できない**実態がある。	
道路交通	・自転車の利用増に伴い、バスや自家用車と**自転車との接触事故**が増えている。 ・専用レーンや優先レーンなどの整備も必要。 ・中央通などは、歩道を広げて車道が狭くなった。 ・**サイクリングの観光客**も増加。	・サイクリング**マップ作製やサイクルステーション整備**を強化。 ・バスに**自転車を持ち込める**工夫を行う。 ・安全に走行できるための検討。
	・東環状が開通すると、市内の交通流動が大きく変わると考えられる。	・**五輪大橋の無料化**を含めて、将来の状況を予測した計画を検討。
観光と交通	・デマンドバスは、観光客など**町民以外が利用できない**。	・デマンドバスのあり方の検討。
	・善光寺周辺は、ＩＴＣ技術の進展などもあり、利用者側が利用時間帯や駐車場所を分散するなどして、混雑が緩和されている。	・利用者側での混雑緩和対策の検討。
	・**インバウンドは白馬方面の利用が多**く、長野周辺に立ち寄れる工夫が必要。長期滞在も多く、あちこち回るための工夫が必要。 ・バス停が分かりにくいとの指摘も。	・都市圏外を含む**広域での観光交通の検討**。 ・**バス乗り場を分かりやすく**するための検討。
	・人気アイドルのコンサートでは、開催時間を工夫したりシャトルバスを出したり工夫して混雑を抑制した。	・交通面だけではなく、**イベント主催側と連携した取り組み**の検討。

■須高分科会のまとめ

分類	背景、コメント	課題
交通体系	・新幹線開業に伴い、長野駅停車本数も増加し**北陸方面からの利用客も多い**。	・**広範囲での連携や取り組み**、地域間を結ぶ**２次交通**が必要。
	・インバウンド観光は公共交通利用であり、**宿泊施設が送迎**を行っている。	
	・**鉄道駅からの２次交通**として、バスやタクシーが重要な機能を有する。	
バス交通	・KURURU を導入したが、バスだけであり、鉄道との連携が無い。 ・小銭が不要など、**KURURU は利便性が高い**。 ・福祉の面でも料金割引があり有効。	・**KURURU 対応の拡大**の検討や、ＩＣ乗車券とあわせた料金体系の検討。
	・屋代線廃止に伴う代替バスは、**速達性の低下などで利用者が減少**。現状では学生中心の利用	・速達性向上の検討。
	・需給バランスを考えると、維持が大変であるが、要望はある。**生活路線は運営が非常に厳しい**。 ・市町村で完結する路線だけではなく、**広域的にやって財政負担**を分かち合ってはどうか。	・広域的な取り組みの検討。
高齢者・福祉交通	・福祉輸送で**車イス用の対応車両を運行しているが、利用に制限**がある。	・高齢者や福祉の方が**手軽に乗れるデマンド交通**の検討。 ・車いすに対応した**道路やバス停の構造や、除雪対応**の検討。
	・**ボランティアの場合、万一の事故時に対応できない**問題がある。	
タクシー交通	・新幹線開業に伴い、北陸方面からの利用客や**観光タクシー利用が増加**。	・需要への対応を検討。
	・タクシーの**高齢者割引や障がい者割引**に、多くの利用をいただいている。	・移動需要への対応。
	・**デマンドバスは停留所まで行くのが困難**との意見があり、乗合タクシーを試験的に実施している。	・ニーズにあわせた**運行と財政負担のバランス**のあり方の検討。
道路交通	・観光や道の駅など、**スマートＩＣの整備効果が大**きい。	
	・昔に比べると需要は減っているかもしれないが、**千曲大橋の整備**が必要。 ・水害や災害時の**代替路やバイパス**整備が必要。	・**前回計画の検証**や、将来交通需要を踏まえた交通体系の検討。 ・**開発計画との整合**した検討。
	・バイパス整備はイオンモールなどの整備も支援する。	
	・66 号線や万座方面への道路の整備も必要。	・県外を含めた、**広域的な検討**。
観光と交通	・イベント時は賑わうが、**中心市街地の活性化は厳しい**状況にある。	・活性化に寄与する交通体系や、施策の連携の検討。
	・観光地区へのアクセス道路は、広い方が良いとする意見と、**自然を活かすために現状で良いとの意見**がある。	
	・長野県は**アウトドア先進地域**の位置づけとして全国的に有名になりつつある。白馬方面などを含めて広範囲で動かれる方の対応が必要。	・**広域でのあり方**の検討。
	・観光シーズンなど、バス増便は**ドライバー確保が困難**など問題点もある。広域対応も模索したが難しい。	・観光シーズンには、**広域での連携**を検討。

■千曲分科会のまとめ

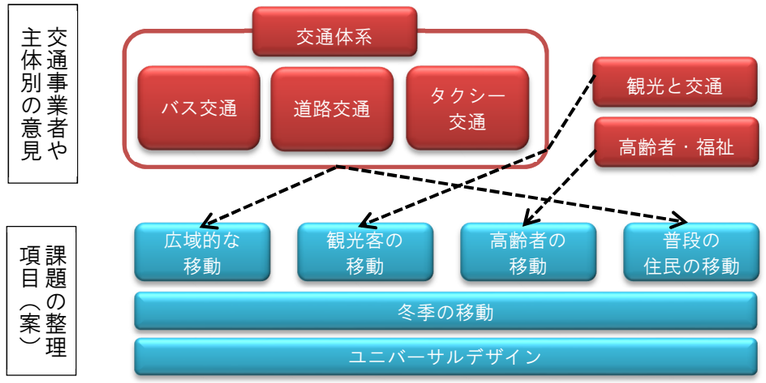
分類	背景、コメント	課題
交通体系	・商業活動は、**上田や長野への依存度が高い**。まちなかの歩行者交通量は横ばい。	・**広域交通と地域交通の連携**の検討。
	・障がい者施設で働く人も増えている。	・**交通弱者に優しい**公共交通の検討。
	・自動車で行くと時間がかかるならば、**自転車の利用促進など、転換施策**を検討しては。	・**マイカー依存の抑制**の検討。
	・商工会議所では、**電気自動車の導入を検討**しており、温泉街での運行を考えている。	・新技術の導入、ＰＲの検討。
バス交通	・**循環バス利用は減少**し、**財政負担は増加**している。 ・高齢者の利用は増えているので、ニーズはある。 ・公共交通機関の利便性向上の意見が多い。	・需要に応じた**利便性の向上**や、**需要喚起を見据えた利便性向上**の検討。
高齢者・福祉交通	・施設のリニューアルなどをうけ、**高齢者にやさしいコンパクトシティ**を実現するための検討を進めていく必要がある。	・**まちづくりと連携**した取り組みの検討。
	・バリアフリーに対応した**低床車両の導入**を進めている。	・福祉車両の**導入に向けた補助**の検討。
タクシー交通	・相乗りタクシーなど検討を進めているが、**ドライバーの高齢化**も進んでいる。	・**交通施策全体としての支出や費用を考えて、補助や対策**を検討。
	・**循環バスの運行によりタクシー利用者が減少**する恐れがある。	
	・**シェア交通は反対**。自家用有償運送も控えてほしい。	
道路交通	・**鉄道横断部や主要交差点などが渋滞**しており、定時性が低下。	・渋滞対策としての**バイパス整備**の検討。
	・**国道１８号の渋滞**解消。 ・**駅前の混雑、渋滞対策**が必要。	
	・温泉街の**通過交通**が問題。	・**トランジットモール**などの検討。
観光と交通	・**インバウンド観光**が増えたほか、宿で食事をせずに外に出る方も多いなど、**多様化**している。	・道路整備を含めて、**２次交通充実**の検討。
	・**旅館が送迎バス**を出すなどして対応している。 ・駅周辺を温泉地らしい景観にできないか。	・温泉地に即した駅舎や、千曲駅・戸倉駅で展開できる空間づくりなどの検討。
	・**駅名やＩＣ名称を変更**し、地域活性化してはどうか。	・**観光施策と連携**した取り組みの検討。
	・**レンタサイクル**の取り組みを開始した。 ・長野電鉄河東線跡地など、**自転車道**としての整備はどうか。 ・体験型サイクリングなど。	・自転車による交通体系の検討。**自転車を活用した暮らしや観光**のあり方の検討。

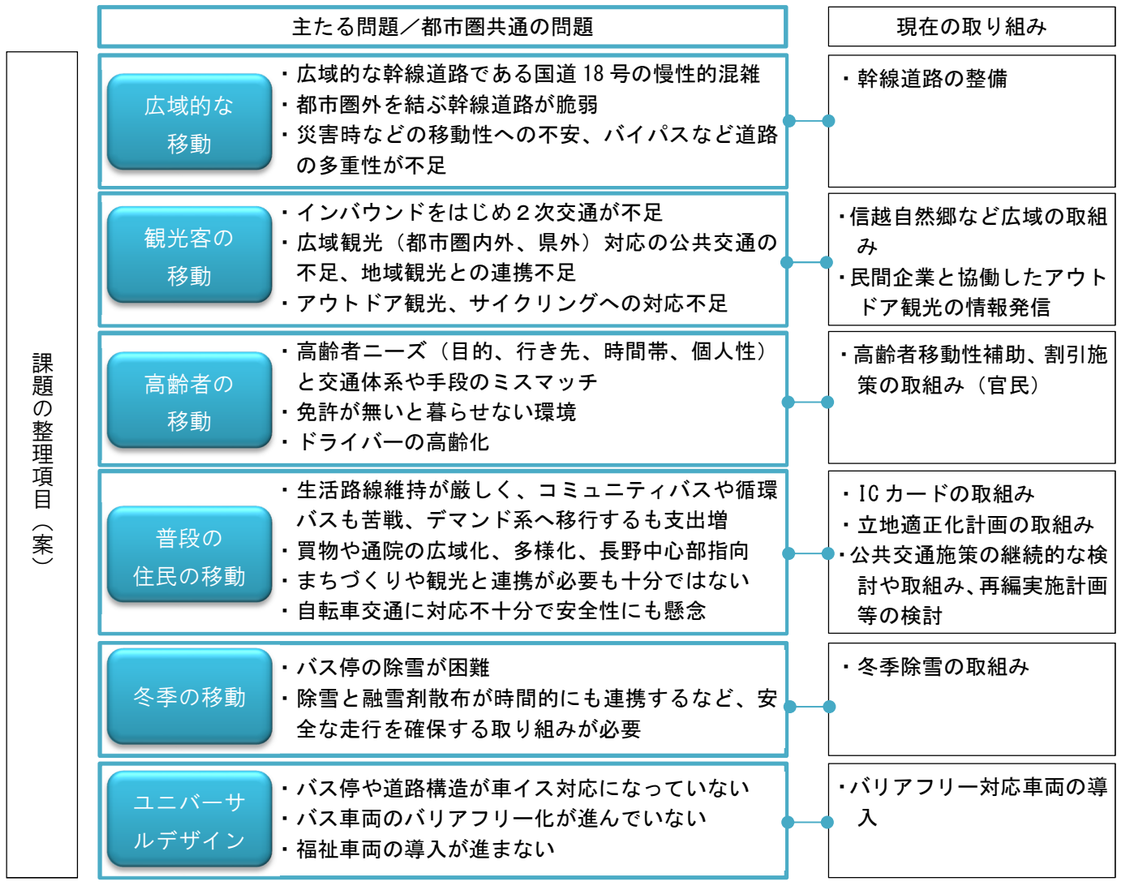
■北信分科会のまとめ

分類	背景、コメント	課題
交通体系	・新幹線延伸に伴い長野駅と飯山駅両方からの案内が必要。利用者は**市町村単位を意識しない**ので、広域の対応を考える必要がある。 ・ハブとなる交通拠点の強化も良いが、**拠点間や施設間の連携意識**も必要。	・**広範囲での連携や取り組み**、地域間を結ぶ２次交通の検討。 ・外国人は公共交通利用が多く、長期滞在の**外国人が、あちこちへ行きやすい環境**を検討。
	・団体客以外は公共交通を利用せざるを得ない。**飯山駅からの２次交通**がポイント。 ・飯山駅発着より長野駅発着の方が、利用客が多く事業性は高い。 ・**観光地と生活路線が組み合わせ**られるとバス交通の効率化が図れる	・観光交通と生活交通の組み合わせの検討。 （直通交通で生活路線はきめ細かな運行が必要）
	・中野から飯山や長野に出る場合、中野駅を経由するとアクセスが悪く感じる。	・**直接飯山や長野へ出る動きに対応**した交通体系の検討。
バス交通	・人口減少、公共交通利用者減少の中で、乗合バスやデマンドなど、路線バスだけに頼らない取り組みを行ってきた。 ・黒字になるのは難しいが、**効率的な運行**を考える必要がある。	・**立地適正化計画と公共交通**をあわせた交通体系の検討。
	・利用者が減少している路線は、**本当にニーズがあるのか**。利用者が少なく営業が厳しい路線に補助金を出す必要があるか。 ・**将来無いと不安**であるという意見もある。	・基盤としての位置づけの検討。**どこまでを補償すべきか**の検討。 ・利用したい時間帯に運行するなど、**需給ギャップ解消**の検討。
	・バス車両のバリアフリーとともに、**バス停など道路側のスペースや除雪**が必要。	・道路側の改良や除雪対応のあり方検討。
高齢者・福祉交通	・高齢者は福祉施策（シルバー乗車券）による補助で助かっている。	・**高齢者が外出しやすい環境**づくりの検討。
	・買い物や通院など、高齢者の移動手段の確保が重要。**免許を返しては生活ができない**。	・公共交通の充実と費用増のバランスの検討。どこまでを補償すべきかの検討。
タクシー交通	・タクシー**需要は、時間帯によりムラ**があるため、タクシー台数の確保に苦慮している。 ・観光に関しては、**季節による変動**も大きい。	・乗務員勤務時間の制約や、ドライバー高齢化、地域全体での調整など、事業側の問題点への対応の検討。
	・究極のデマンドはタクシー券。バスの補助でタクシーを利用してもらう。**相乗りへのインセンティブ**なども考えてはどうか。	・高齢者は急に減少しないので、交通弱者対策が必要。
道路交通	・有料道路が地域の連携を阻害している。	・**地域連携を高める**交通施策の検討。
	・小牧橋や大関橋の拡幅が必要。	
	・降雪時には、除雪とあわせて凍結防止剤の散布が必要。	・**冬季の安全通行**、除雪対策の検討。
観光と交通	・広域観光など**テーマを持って取り組む**ことが必要。テーマにあわせて交通体系も考えるべき。	・信越自然郷を核とした**地域のキャンペーンや取り組みと連携した施策**の検討。 ・車だけでなく、徒歩や自転車に乗るための道路や公共交通のあり方の検討。
	・グリーンシーズンの、広域トレイルや飯山駅を中心とした自転車利用などに取り組んでいる。 ・**飯山から飯綱町や信濃町への軸**も必要。	

4.2 結果のまとめ

分科会からは、交通体系（バス、タクシー、道路）に関する意見や、観光と交通、高齢者や福祉と交通など、多様な切り口からご意見をいただいた。これら意見を、主に移動の目的や主体で区分して移動環境別に課題を整理するとともに、移動環境に共通する冬季の移動やユニバーサルデザインの関連で整理した。





課題のまとめ（案）

	都市圏共通	長野	千曲	須高	北信
広域的な移動	**広域道路網の継続的な改善**	○インバウンド対応など、広域（白馬方面等を含む）で観光地間を結ぶ公共交通網の形成	○商業は上田や長野への依存度が高いなど、広域交通と地域交通の連携 ○R18 渋滞対策としての、バイパス整備	○広範囲での連携、取り組み、2次交通 ○防災面も見据え、千曲大橋、福島地区のバイパス整備早期化	○広域での連携や取り組み、2次交通、直接長野へ出る動きへの対応 ○信越自然郷での移動性（自動車、自転車等）の確保
観光客の移動	**新幹線駅から観光地までの2次交通の充実** **広域で観光地間を結ぶ公共交通網の形成** **自転車走行空間の確保**	○自転車走行空間の確保、サイクリングマップ、サイクルステーション整備 ○観光客も利用できるデマンドバス ○分かりやすいバス乗り場 ○イベント連携の混雑抑制	○道路整備を含めた2次交通の充実、通過交通抑制 ○駅から宿泊施設までのタクシー相乗や循環バスのダイヤ改善 ○自転車走行空間整備（跡地利用）、レンタサイクル拡充 ○観光施策と連携した取り組み、温泉地らしい空間づくり	○観光地間を結ぶ広域公共交通網の形成（市町村間） ○観光シーズンの公共交通サービスの充実（バス増便にドライバー確保が困難） ○登山者の自動車アクセスを支える山間部の道路整備	○飯山駅からの2次交通の充実 ○観光地間を結ぶ公共交通網の形成 ○観光交通と生活交通の組み合わせの検討 ○自転車走行空間の確保 ○タクシーの季節変動への対応、需要平準化の観光施策
高齢者の移動	**福祉有償輸送と公共交通の連携や役割分担** **タクシー利用の促進**	○福祉有償輸送と公共交通の連携や役割分担 ○目的の組み合わせへの対応（通院途中の買物等） ○ニーズに合わせた施策（買物バス、送迎）	○施設で働く高齢者等の移動を支える公共交通の充実 ○高齢者に優しいまちづくりと連携した取り組み	○福祉有償輸送と公共交通の連携や役割分担 ○乗合含むタクシー利用、運行と財政負担のバランスのあり方 ○高齢者割引への行政支援	○福祉有償輸送と公共交通の連携や役割分担 ○タクシー利用の促進、時間帯変動の平準化 ○ドライバー高齢化等事業者側問題点への対応
普段の住民の移動	**観光客の移動と連動したバス路線の形成** **公共交通の定時性･速達性の確保**	○需給バランスや目的に応じた取り組み、利用客減少に歯止めをかける対応 ○物流と連動したバス路線の形成 ○路線バスの定時性･速達性の確保	○需要に応じた利便性向上 ○屋代駅前通りの通勤通学時間帯の渋滞対策 ○鉄道横断等の渋滞対策、バイパス整備 ○マイカー利用抑制、自転車へ手段転換 ○交通施策全体としての支出や費用を考えた補助や対策	○広域でのバス路線網の形成 ○速達性の向上 ○駅から目的地までの公共交通網の形成 ○広域的な取り組み、KURURU 対応の拡大 ○大規模商業施設等開発計画と整合した検討	○観光交通と生活交通の組み合わせの検討 ○需給ギャップの解消 ○路線バスの運行本数の確保（どこまでを補償するか） ○長野電鉄長野線の利便性の向上
冬季の移動	**冬季の安全で安定した移動性の確保**	○バス停の除雪	○屋代駅前の除雪	○バス停の除雪	○融雪剤散布の時間帯の改善 ○冬季の自転車走行の安全性の確保
ユニバーサルデザイン	**利用しやすく安全な移動性の確保**	○バス停の車椅子対応	○タクシー福祉車両の導入に向けた補助の検討	○道路やバス停の構造など車椅子対応 ○車両の利用制限	―

5. 都市圏の方向性のポイント

5.1 交通から見た都市圏の方向性のポイント

過年度に現況等から整理した課題をベースとして、分科会の意見を踏まえ、将来像の検討に向けた交通から見た都市圏の方向性は以下の4点に整理できる。

現況、上位計画等からみた都市圏の課題

- 広域交通や高速交通体系の充実を踏まえ、活用のあり方や機能の高め方
- 交通システムやサービス水準のあり方
- 交通面からみて望ましい都市構造のあり方、人口や都市機能の分布のあり方
- 都市圏の拠点としての長野中心部の交通や、アクセスのあり方
- 市町中心部やまちなかにおける交通や、アクセスのあり方
- 身近な生活拠点・観光拠点における交通や、アクセスのあり方

分科会の意見を踏まえた都市圏の課題

（広域的な移動）
- ●広域道路網の継続的な改善

（観光客の移動）
- ●新幹線駅から観光地までの2次交通の充実
- ●広域で観光地間を結ぶ公共交通網の形成
- ●自転車走行空間の確保

（高齢者の移動）
- ●福祉有償輸送と公共交通の連携や役割分担
- ●タクシー利用の促進

（普段の住民の移動）
- ●観光客の移動と連動したバス路線の形成
- ●公共交通の定時性・速達性の確保

（冬季の移動）
- ●駅前・バス停の除雪（誰が、いつ）
- ●冬季の交通手段（冬季の自転車、公共交通への転換）

（ユニバーサルデザイン）
- ●バス停の車椅子対応
- ●まちなかや駅周辺のあり方、しつらえ方

都市圏内市町で取り組んでいる主な施策

■高齢者等移動助成、割引等の取り組み

自治体等	取り組み名称	対象	補助、割引制度等
長野市	おでかけパスポート	70歳以上	路線バス、市営バス、乗合タクシーの運賃補助（乗車証IC機能付きカード）
須坂市	市民バス昼割	全市民	市民バス４路線
中野市	シルバー乗車券	70歳以上	バス、電車、タクシー乗車券と温泉施設の利用助成券を給付
千曲市	タクシー利用料金助成	障がい者等	タクシー利用料金の助成回数券を交付
飯山市	コミュニティバス割引	障がい者等	コミュニティバス、乗合タクシーの料金割引
飯綱町	福祉有償運送支援	高齢者、障害者	福祉有償利用料の補助
小布施町	タクシー利用助成	75歳以上	タクシー利用助成券の配布
信濃町	タクシー等利用助成	75歳以上	タクシー利用助成券の配布
タクシー協会	運転免許返納高齢者割引	免許返納者	タクシー料金の割引
バス・鉄道事業者	バスふれあいデー 特別割引回数券	誰でも	水曜日用のお得な回数券、KURURUポイントの付与

■広域的な観光の取り組み

○長野県、新潟県にわたる９市町村（飯山市・中野市・妙高市・山ノ内町・信濃町・飯綱町・木島平村・野沢温泉村・栄村）では、全域を「自然共生圏」と捉え、「信越自然郷」と命名し、北陸新幹線「飯山駅」の開業を機に観光に関する取り組みを実施。

■立地適正化計画、地域公共交通網形成計画の策定状況

自治体等	長野市	須坂市	中野市	千曲市	飯山市	飯綱町	小布施町	信濃町	
地域公共交通網形成計画	H28年度策定予定	H28年度策定予定	連携計画で対応	H29年度策定予定				H28年度策定予定	県資料
立地適正化計画	H28年度策定予定			H28年度策定予定					国交省資料

■コミュニティバス、デマンド交通の取り組み状況

自治体等	長野市	須坂市	中野市	千曲市	飯山市	飯綱町	小布施町	信濃町	
コミュニティバス	11	4	3	9	2	7	（ｼｬﾄﾙﾊﾞｽ）	－	系統種類数
デマンド交通、乗合タクシー	20	1	1	1	6	4	－	1	系統種類数

交通からみた都市圏の方向性

＜課題＞
- ・鉄道の利用促進や域内交通との連携の検討
- ・幹線道路の整備
- ・優先順位の検討

⇒ **都市圏広域交通ネットワークの機能強化、利用促進**

＜課題＞
- ・駅と観光地や観光地同士を結ぶ公共交通の検討
- ・広域観光（白馬、県外）への対応の検討
- ・サイクリング、トレイル、テーマを持った取組みの検討

⇒ **高速交通体系と一体化した観光客の移動環境向上**

＜課題＞
- ・行政界を越えた公共交通の連携の検討
- ・物流・観光交通など、組み合わせや連携の検討
- ・高齢者、福祉の移動性や、タクシーの柔軟利用検討

⇒ **暮らしを支えるこれからの交通システムづくり**

＜課題＞
- ・歩道者優先のまちづくり(トランジットモール等)
- ・まちなかへの公共交通アクセスの利便性向上
- ・施設と連携した交通環境づくり

⇒ **拠点強化に資するまちなか交通環境充実**

PT 調査結果等から妥当性を検証

将来の都市構造と交通計画の考え方

【前回計画】

◆将来の都市構造

長野県では県土全体を１０の生活圏域に分け、各圏域ごとに都市づくりの理念や方針、独自の取り組み等を示した「圏域マスタープラン」を策定しています 。

本計画では、圏域マスタープランに示されている都市づくりの基本理念から、長野都市圏における都市づくりの目標を設定しました。

【長野圏域】
高度な都市機能とふるさとの自然が調和する文化交流都市圏の創造

【北信圏域】
ふるさとの自然の恵み（緑、雪、温泉）を地域活力につなげる北信圏域

◆都市づくりの目標◆

○地域資源（歴史・文 化・自然）を生かした交流拠点の形成

○広域観光ネットワークの形成

○雪に強い都市づくり

将来交通の予測や計画課題をもとに、長野都市圏総合都市交通計画の基本理念および基本方針を設定しました 。

◆ 基 本 理 念 ◆

「つくる」から「活かす」 交通体系の実現

長野都市圏には、様々な地域資源が育まれ・培われてきており、次世代に継承することが必要です。

これからの都市交通は、既存の交通ストックを有効に活用し、使いやすさの向上や地域資源の保全・活用など、交通の質的な向上を目指します。

◆ 基 本 方 針 ◆

（テーマ別）

①超高齢化社会に対応した誰もが自由に行動できる生活交通を形成します。

②都市中心部の交通システムを確立します。

③広域交流・地域連携を支える交通ネットワークを整備します。

④地域資源を活かし、まちの賑わいを創出する交通体系を整備します。

⑤環境景観に配慮した交通まちづくりを推進します。

（交通手段別）

○自動車交通　既存の道路ストックを活かし、さらに機能の充実したネットワークを形成します。
また、効率的な自動車利用を推進します。

○公共交通　高齢化社会において、他に交通手段を持たない人の貴重な交通手段であり、自動車交通に起因する諸問題解消のため、利用環境の整備、利便性の向上を図ります。

○徒歩・自転車交通　徒歩は、最も基本的な交通手段であり、安全性・快適性の向上とともに、地域特性に応じた歩いて楽しい歩行空間を整備します。
自転車は、環境負荷の低い交通手段として利用促進を図ります。

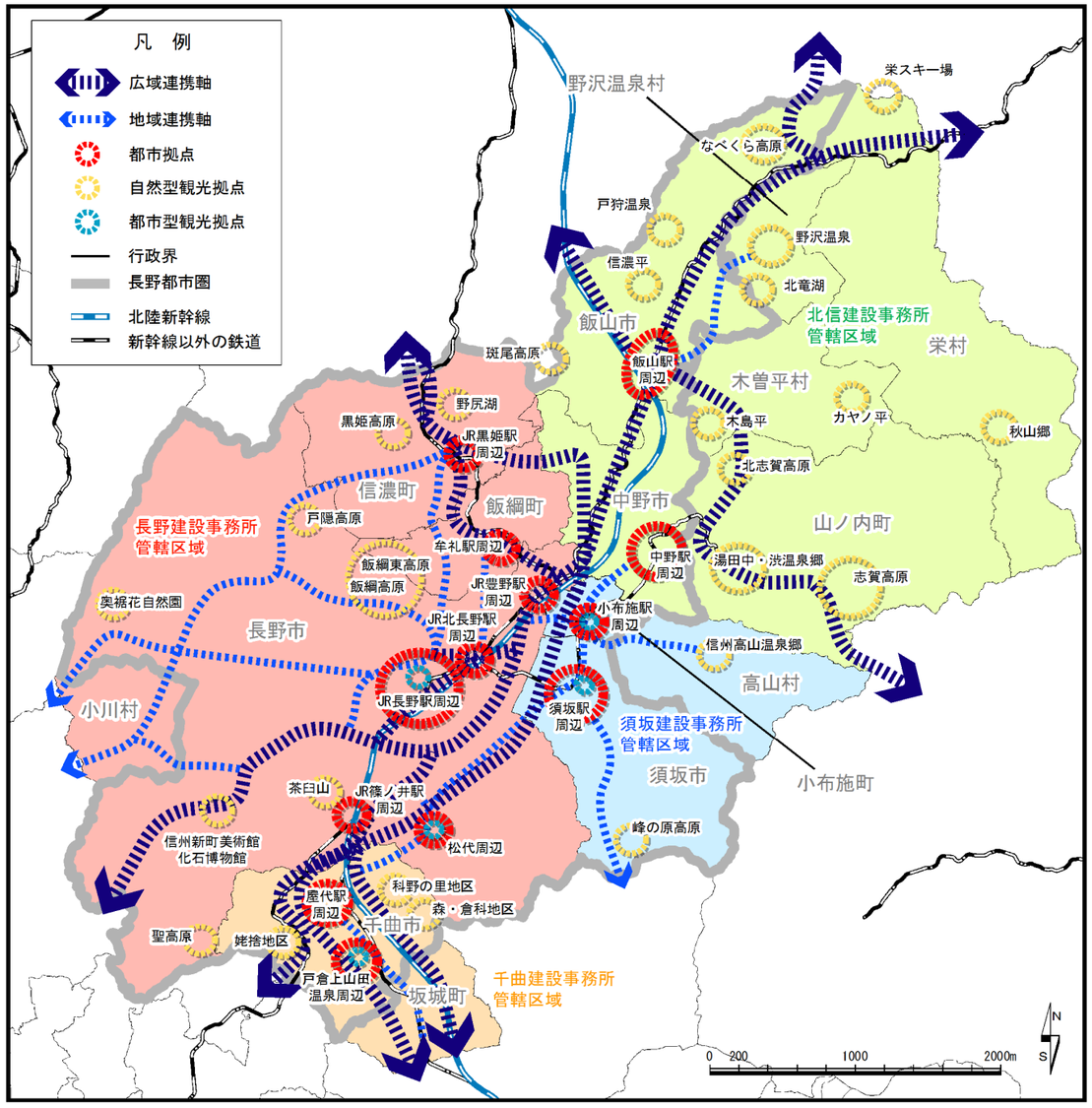
◆ 基本理念を実現するための交通計画 ◆

- 将来道路網
- 将来公共交通
- まちづくりと一体となった交通計画
- 交通需要マネジメント

5.2 将来像検討のための資料

交通からみた都市圏の方向性	将来像検討のために必要な資料、分析（PT 等調査データ以外）	PT 等調査データによる将来像検討
都市圏広域交通ネットワークの機能強化、利用促進	・プロジェクト整理（物流、産業、観光等） ・主要道路の整備状況等 ・都市計画道路整備状況	・都市圏来街者の流動特性、ニーズ把握 ・市町村間の流動特性、ニーズ把握 ・都市構造（拠点、軸）と交通流動特性の整合性
高速交通体系と一体化した観光客の移動環境向上	・新幹線・鉄道・幹線バス連携、類似新幹線駅の取り組み事例 ・レクリエーション系サイクリングロード整理 ・観光（広域、市町）プロジェクト ・外国人観光客にも使いやすくわかりやすい観光公共交通、料金	・観光客調査および来街者調査による、観光客の移動方面、移動手段、移動需要量確認によるニーズ把握 ・来街者の流動確認によるニーズ把握 ・訪日外国人流動の確認によるニーズ把握
暮らしを支えるこれからの交通システムづくり	・移動制約者数の推定（人口構造の詳細分析、高齢者数、学生数、単身高齢世帯数、高齢者のみ世帯数、障がい者数） ・タクシー無料券、補助券等制度確認、免許返納状況 ・バス、タクシードライバーの高齢化状況 ・公共交通利用料金と補助の状況 ・自動運転の動向、特区等取り組み状況	・高齢者の交通行動実態、目的、行き先 ・個人属性（家族構成や居住地、自家用車利用状況）と交通特性（外出率、手段、頻度） ・個人属性と今後の暮らしに対する希望
拠点強化に資するまちなか交通環境充実	・立地適正化計画策定進捗、公共交通網形成計画／再編・実施計画進捗 ・身近な暮らしニーズの場所確認（診療科目別カバー圏、商店やスーパーのカバー圏） ・将来人口の見通し（空間的な分布、見通し）	・個人属性と公共交通利用特性（住まい、発着位置の特性） ・短距離トリップの交通特性（発着位置、交通手段など、地域特性との関連性も分析） ・人口の集積度合いと交通特性（目的別発着特性、交通手段特性など） ・公共交通サービスと利用者属性、地域特性、

5.3 都市構造図（検討案）



注：第２回長野都市圏総合都市交通計画の将来都市構造図をもとに
現行の都市計画区域マスタープランとの整合性を確認して作成

図　将来都市構造図（検討案）

参考　スマートフォンを活用した調査　（国土交通省都市計画調査室が実施し結果を共有する）

●第３ロットでは、WEB 回答とともにスマートフォンで回答できるシステムを用意
●第３ロットと並行して、スマートフォンを利用した１週間連続（ダイアリー型）簡易調査を実施

■スマートフォンでの回答について（システム構築の関係で第３ロットのみ対応）

①調査方法

〇システム構築の関係で、第 3 ロットのみスマートフォン専用回答ページを用意する。

〇スマートフォン専用回答ページの案内は、「調査のご説明」資料に変更、追記する。

②スマートフォンによる回答イメージ

・パーソントリップ調査のうち「世帯票」、「個人票」をスマートフォンからも回答できるようにするもので、急速に普及が進むスマートフォンでの入力を可能とすることで、参加機会の増大を図ります。

・また、スマートフォンの入力特性に合った入力形式の調査票とすることで、入力負荷の軽減も図り、上述した「参加機会の増大」と「入力負荷の軽減」、更にスマートフォンの特徴である「いつでも・どこでも入力可能」という点も合わせ、回答数の増加が期待されます。

図　スマートフォン利用の利点

■１週間連続（ダイアリー型）簡易調査について

①目的

〇通常のパーソントリップ調査では、「１週間のうち数日だけ行う行動（買い物や通勤等）」や休日の交通行動が把握できないなどの課題が指摘されている。

〇また、交通行動の曜日変動や細かな移動（昼食に近くのコンビニまで買物に行く等）も、現在の調査方法では把握できない状況である。

〇PT 調査とは異なる調査を行い、現在収集できていないデータを把握し、調査結果の違いを把握することを目的とする。

②調査方法

〇長野都市圏総合都市交通計画協議会名にて、長野市の約 1,600 世帯を対象に実施（予備票用に抽出した世帯を対象）する。

〇スマホアプリを用いて入力支援を行う（アプリ利用の場合）。

〇一週間連続調査は、10/23（日）～10/29（土）までの行動について調査する。

③画面イメージ等

〇１週間の入力を容易にするため、よく行く場所を事前に登録できる。

【入力画面イメージ】

〇移動の目的、手段、時間を問いかけ、乗り換え場所や駐車場所、利用ＩＣ名などは省略する。

【入力画面イメージ】

【アプリイメージ】